



Renaissance くるさき

No.49
2022.1

副都心黒崎開発推進会議

発行/副都心黒崎開発推進会議 広報委員会
事務局/北九州市八幡西区黒崎3-15-3 ヨムシティ5F TEL・FAX093-642-1001



みずのえとら

『壬寅』 設立30周年！初心忘るべからず

☆壬寅(みずのえ・とら)・・・2022年の干支。

干支は10種類の十干(じっかん)と12種類の十二支の組み合わせからなる。「壬寅」の意味は、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれることを指し示している。



グランプリ【知事賞】受賞!! 「第13回ふくおか地域づくり活動賞」



プレゼンター 池本 綾女

2022年に30周年を迎える副都心黒崎開発推進会議。これまでの活動を踏まえ、福岡県の事業『令和2年度(第13回)ふくおか地域づくり活動賞』に応募いたしました。まずは申請書類を作成するにあたり、発足からの活動の棚卸しからスタート。結果、県内28の応募団体の中から書類選考でグランプリ候補の4団体に残り、2021年1月23日の最終審査にて7分間のプレゼンテーションを行うこととなりました。当初は古賀市の会場で開催される予定でしたが、コロナ禍ということで、直前でZOOMを使っての開催となりました。団体概要から、活動を始めたきっかけ、テーマ、日頃取り組んでいること、力をいれていること、今後の取り組み、広げていきたいテーマなどを7分間に凝縮するという作業は大変な労力を必要とし、慣れない準備に戸惑うことが多かったのですが、見事「グランプリ【知事賞】」を受賞することができました!!

受賞理由は、タウンシップ(まちづくりを通じて育む友情・絆)という新しいまちづくりの概念を生み出し、9月6日を「黒崎96の日」と定めて商店街で記念事業を開催するほか、黒崎駅の南北自由通路の愛称を公募するなど、黒崎地域の活性化や郷土愛の醸成に取り組んできたこと。地域住民や事業者、行政など様々な背景を持った

方々が立場を超えて協働し、地域のために長年活動を続けてきたという点を高く評価いただきました。

賞金の30万円も獲得することができ、当会の活動は県を通して今後の地域づくり団体の活動の糧となり、県民の地域づくりへの関心を高める一役を担う団体として、他の地域づくり団体及び県民に広く紹介されました。これも、当会の発足当時から、長年の活動に寄り添い、支えてくださった会員の皆さま、関係各社・団体・機関、および地域の方々のおかげと深くお礼申し上げます。



自律分散参加型組織を目指して

副都心黒崎開発推進会議 会長 山口 典 浩



この度、前戸島会長の後を受けまして当会議の会長をさせていただくことになりました山口です。黒崎も駅前の大型商業施設の閉鎖やコロナ禍により生活の様相が一変する厳しい環境の時に重責を担うこととなりました。微力ではありますが何かのお役に立てるのであればということで会長職を受けさせていただきました。

当会議も今年 30 周年を迎えるわけですが、設立当初とは時代も環境も大きく様変わりしました。よく企業の寿命は 30 年と言われますが当会議のようなボランティア組織についてもそのことが言えるのだと思います。持続可能な組織にはイノ

ヴェーションが必要ですが、そのためには組織の存在意義や地域に提供する価値を明確にする必要があります。「副都心」とは「開発」とはを新たに定義しなければこのVUCAの環境に適應できない組織となってしまいます。そこで先人の知恵から学ぶということで持ち出すのは「初心忘るべからず」ではないかと考えています。世阿弥の言葉ですが、これは物事を始めた時の気持ちを忘れないというふうに捉えがちですがこれは間違った解釈です。世阿弥は、初心とは今までとは違った次のステージに立つ時、今まで培ってきたものを全て捨て去り新たにコトを始めるときの真っさらな気持ちや覚悟のことを「初心」と言ったのです。これから新たに当会議を設立するとなれば立脚しこれからの30年を考える必要があります。

まだまだコロナ禍で活動が制限される状況は続くと思われませんが、この不確実な状況に立ち尽くすのではなく、立ち止まって考え初心を持って前進するためのまたとないチャンスだと捉えています。

線形モデルの成長が望めない環境での自律分散参加型組織の存在意義と役割を会員の皆様とともに考えていければと思っております。

黒崎の未来を描く ～新たなステージへの第一歩～

北九州市長 北橋 健 治



新年あけましておめでとうございます。副都心黒崎開発推進会議の皆様には、日頃より、黒崎のまちづくりにご尽力いただき、誠にありがとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスの度重なる感染拡大により、緊急事態宣言が長引くなど、一昨年に引き続き、社会・経済活動を行って行く上で、窮屈な思いを余儀なくされた一年でした。このような状況の下、知恵を絞り、工夫を凝らしながら、黒崎のまちを盛り上げるための様々な活動に取り組んでいただきました。推進会議の皆様には

改めて感謝申し上げます。昨年は、推進会議の皆様にとって、明るいニュースがありました。「黒崎96の日」を始めとした皆様の活動が高く評価され、地域づくりネットワーク福岡県協議会主催「第13回ふくおか地域づくり活動賞」において、グランプリを受賞されたことに深く敬意を表します。

黒崎地区は、本市のまちづくりにとって重要な拠点の一つです。近年、マンションの立地も進み、地区の居住人口が増加するなど、民間による開発意欲や新たな変化が生まれております。これらを踏まえ、本市では、公共と民間の双方が連携したまちづくりを強力に推進していくため、概ね30年後のまちの方向性を示す「2050まちづくりビジョン」の策定に取り組んでおります。策定後は、このビジョンの実現に向け、皆様と議論を深め、連携しながら、まちづくりを進めていきたいと考えております。

本市が推進するSDGsの目標達成の一翼として、黒崎のまちのよりよい未来を描き、その姿を実現するために、精一杯取り組んでまいりますので、推進会議の皆様には、今後とも黒崎のまちづくりにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

黒崎のまちづくり

八幡西区長 **武藤 朋美**



副都心黒崎開発推進会議会員の皆様には、日ごろから、黒崎のまちづくりにご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて八幡西区役所では、ハード・ソフトの両面から、黒崎のまちづくりに取り組んでいます。

ハード面では、ワークショップの手法を用いて地元と協働で計画を策定する通りづくりプロジェクト、「黒崎みち再生事業」が進行中です。岡田宮から続く通りを「表参道新天街」として、神社前の参道の雰囲気を感じられる灯籠風の照明を整備するなど、通りの特色をいかしたコミュニティーゾーンの道づくりを行っています。現

在、国道3号線とふれあい通りをつなぐ黒崎26号線などを整備中です。今後も地元の皆様と協議を重ねながら、黒崎地区の賑わいの創出に寄与していきたいと考えています。

またソフト面では、昨年春、3密を避けて楽しめるイベントとして、曲里の松並木や岡田宮など、黒崎の歴史を感じることでできるスポットを中心に、街全体を周遊する「謎解き宝探しイベント」を実施しました。地元店舗などにご協力をいただきながら開催した約1か月間で、親子連れを中心として2,200名を超える方々にご参加いただきました。期間中はまちのあちこちで、謎解きを楽しまれる姿が見受けられ、黒崎の春の賑わいの一助となることができました。本年は区域を拡大して実施する予定です。多くの方に楽しみながらまちの魅力を再発見していただけるよう企画していますので、是非ご家族、ご友人をお誘いあわせのうえご参加ください。

八幡西区役所は、これからも黒崎の明るい未来のため全力で取り組んでまいりますので、推進会議会員の皆様も引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2050まちづくりビジョンについて

北九州市建築都市局 都市再生担当課長 **御船 雅寛**

人口減少や少子高齢化が進行する中、今後のまちづくりにあたっては、公共と民間の双方が連携を図り、限りある財源を重点的かつ有効に投資していくことが求められます。

そこで、本市では、小倉、黒崎、東田の3地区において、概ね30年先の2050年を見据えた長期の構想「2050まちづくりビジョン」の策定に取り組んでいます。

まちづくりビジョンは、

- ①「本市にとって、市が考える将来目指すまちづくりの方向性について、あらかじめ明示する「メッセージ」となるもの」
- ②「民間にとって、まちづくりへ投資を行う際、1つの重要な「判断材料」となるもの」
- ③「市と民間にとって、互いにベクトルを合わせ、将来に向かって同じ方向へ歩んでいくための「羅針盤」となるもの」

の3つの役割を担うことを目的としています。

黒崎地区においては、「多様性を認め合い、支え合う、みんなが住みたくなるまち」を目指す方向性として、医・食・住の機能が整った「住みたいまち」としての魅力を高めていきたいと考えています。

まちづくりビジョンを通じて、本市が目指すまちづくりの方向性を広く示すことで、多くの人々から共感を得るとともに、「まち」へ投資したくなる、「まち」で消費したくなる、「選ばれるまち」になることを目指していきます。



黒崎96の日 2021

黒崎96の日実行委員会 実行委員長 **下澤 政宏**

今年で6年目を迎える「黒崎96の日」。当会が主幹団体として牽引するべく、最初の企画立案から、実行委員会を立ち上げ、これまでの5年間引っ張ってこられた池本幹事長から今年度はバトンを引き継ぎ、私が実行委員長を務めることになりました。

これまで実行委員メンバーとして乾杯大会のお手伝いを行ってきましたが、実行委員長として初めてイベントを企画運営するということが池本さんには会長としてサポートをいただきながら少しずつ準備を始めました。しかし、すべてが初めてで、何を決めるのか、何を決めないといけないのか。と迷うことの連続。行政への後援申請や各企業さまへの協賛のお願いなどスケジュールとの闘いでもありました。

コロナ禍でなかなか実行委員会も開かず、多くはメールや電話でのやり取りとなりましたが、悩んだ時、困った時も委員の皆さまから様々な意見やアドバイスをいただき前へ進めることができ、チラシなどの作成でも締め切りギリギリ、夜遅くまで意見を出し合い完成し、実行委員会のメンバー、商店街の方々が一軒一軒足を運んで掲出、ラリーへの参加をお願いしていただきました。

9月は緊急事態宣言下ではありましたが無事に1か月の「96の日マンス」を終えることができ、10月15日のラリー抽選会には、副実行委員長の池内さま(安川電機)、丹生谷さま(エコるにぶや)、向井さま(クラウンパレス北九州)、そして幸野さま(黒崎播磨)、入江事務局長などがお手伝いに参加いただきました。

昨年に引き続き、コロナ禍で自粛が続く中での開催ということもあり、花火やラリーで多くの感謝のお言葉や「来年は乾杯大会したいね」という声もありました。また、筑豊電気鉄道さまの「応援列車運行」や会員の皆さま方からも多くの協賛品をいただくなど、出来る範囲で様々な企画・実施していただき感謝申し上げます。

黒崎を盛り上げようと企業、商店街、行政が一体となって作りあげた「黒崎96の

日」を今回も開催できたことにホッとしています。

今年はどんな形でできるかはわかりませんが、街の記念日として定着していけたら良いなと思っています。

96の日について

北九州市立黒崎中央小学校 **佐伯 利恵**

「今、この一瞬にありがとう」これは、ステイホーム期間中、色々なことを我慢してきた子どもたちが学校に戻ってきた日に、話した言葉です。当たり前前のできることに感謝しようと、この言葉を合言葉にして活動していました。そんなある日、「96の日」に、黒崎のどこかで花火が上がるというお知らせがありました。花火を見た子どもたちからは、「今年も花火大会が無かったので、元気をもらいました。」「『今この一瞬にありがとう』という気持ちがさらに、強くなりました。」という感想が寄せられました。こんな素敵なイベントを企画して下さった黒崎の方々どんな形で恩返しできるか、6年生が計画しているところです。6年生の活動が楽しみです。



黒崎にある曲里の松並木を活用したまちづくりと黒崎宿場夜市について

チーム松並木 代表 武智 充

黒崎ひびしんホール・八幡西図書館の隣に市指定史跡「曲里の松並木」があります。この松並木は、江戸時代に徳川幕府が全国の街道に松や杉を植樹させた名残です。昭和20年頃までは黒崎から木屋瀬にかけて、街道には多くの松を残していたらしいのですが、今は唯一この曲里の松並木だけが昔の長崎街道の面影を残しています。この曲里の松並木を整備して、福岡市にある大濠公園のような、人が集い楽しめる市民の憩いの場にしたい。そのようなまちづくりの思いから有志が集い始めたのがチーム松並木の活動です。チーム松並木は、まず松並木をきれいにすることが大事であると考え、2019年9月より毎月第2日曜日に月一回松並木の清掃活動を行っています。開始時期は10名程度の参加者でしたが、今では中高生や大学生の参加も増え毎月約40名程度となっています。次に人が集い楽しめる場所として、地域の方々に認識してもらうため、50個のLEDライトで松並木を幻想的にライトアップし、近隣の幼稚園児小学生の描いた1,500個の紙灯籠を設置するイベントを開催しました。これが黒崎宿場夜市です。第1回の宿場夜市は2020年の10月、第2回は2021年の4月、第3回は11月に開催し、約1,500名の方々にご来場頂きました。

今後の目標としては、夜間暗い松並木に常設のLEDライトと防犯カメラを設置し、景観的には美しく、防犯的には危険でないライトアップを行い、夜間でも歩くこ

とができる状態にすることです。そうすることで松並木と黒崎の商店街周辺の飲食店との回遊性が生まれ相乗効果が高まると考えています。ほかにも長崎街道のスイーツが楽しめるカフェ、松並木を眺める展望台や屋外舞台、ゲストハウスなどの設置も検討していきます。

どうか皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



黒崎まちゼミ

黒崎まちゼミ実行委員会 実行委員長 満永 恵太

「得する街のゼミナール=まちゼミ」は、商店街などのお店の方が講師となって、お店の専門知識やプロのコツを無料で教えるミニ講座です。黒崎では、過去5回まちゼミを開催しており2021年10月開催のまちゼミでは、参加した16店舗が27の講座を行い、このコロナ禍の中、250名を超える方々に来店していただきました。アンケートでは、99%の方に満足とのお声をいただいております。お店の講師の方からも「お店に初めて来られて喜んでいただき再来店につながった」と、【お客様】【お店】【地域】の三方よしの事業となっております。2022年2月には第6回まちゼミが開催されます。お店の方々もお客様に喜んでいただける講座を準備して心待ちにしています。是非ご参加下さい。



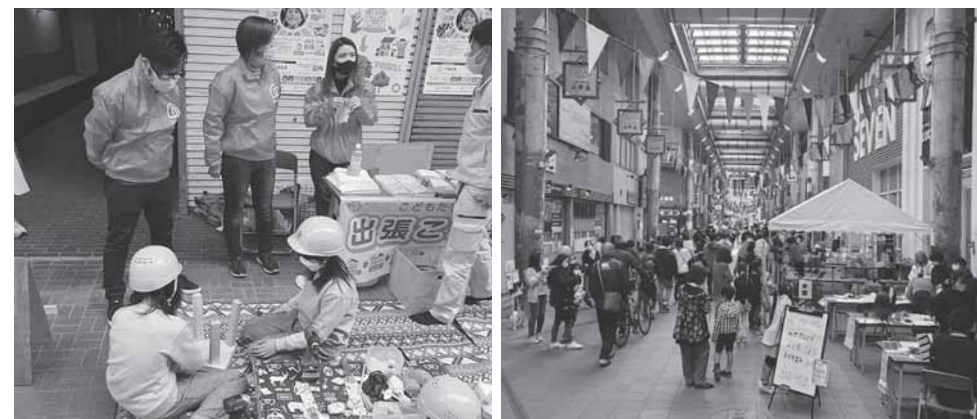
黒崎子ども商店街

黒崎商店組合連合会 会長 田中 大士

明けましておめでとうございます。

黒崎子ども商店街は2011年から年に1回開催しておりましたがコロナウィルスの影響で2年ぶりの開催。体温チェック、人数制限（通常の半分以下）、消毒、空間確保など様々な感染対策をし、11月13日（土）無事に開催できました。これもひとえに協力して頂いた方々のおかげです。

黒崎子ども商店街とは、子どもハローワークでお仕事を選び、仕事をし、給料をもらい、そのお金で買い物をするというイベントです。大人の仕事を体験することで自主性を引き出しその経験から自分に自信を持てるようになってもらいたい、仕事の大変さや楽しさを学んでもらいたいと思い始めたイベントです。実際にある店舗や銀行やモデル事務所など様々な企業の方に協力してもらい行われています。また無料コーナーには警察、消防署、自衛隊などの展示車など普段見れない光景がアーケードにあるなど非日常の1日となりました。当日は通常よりも3割くらい少ない14,000名の人出でしたが、アーケードには沢山人出で賑わっていました。普通の日もこれだけの人が来てくれればと毎年思っています。今年はコロナウィルスが落ち着いて良い年となりますように。



第23回ヤングサンタ

(一社)北九州青年経営者会議 第61期会長 田代 秀稔

今年もたくさんのご協力をいただき第23回ヤングサンタを無事に終わることが出来ました。出発式では北九州市長北橋健治様に出発のコールをいただき30名のボランティアサンタさんが会場を出発しました。今年は9件の児童福祉施設・2件の小児病棟・20件の一般家庭に訪問しました。コロナ禍がまだまだ続いていますがJCHO九州病院ではペランダを利用し窓越しに子ども達の元へ訪問し、施設訪問では北九州市内の施設が集まってドッジボール大会の行われている会場にも訪問しました。

コロナ禍で様々な制約がある中、皆様のご協力のおかげで一般家庭も含めて今年は約700名の子ども達に笑顔とプレゼントをお届けすることが出来ました。ありがとうございました。



福岡県警察繁華街創生プロジェクトの取組について

繁華街創生プロジェクト 管理官 藤田 要

福岡県警察繁華街創生プロジェクトが発足し、地域や行政の皆様方とともに各種取組を始めて、7年目を迎えました。

昨年は、五代目工藤會幹部に対する厳しい判決が示されるなど、社会における暴力団対策が大きく前進した年でありましたが、プロジェクトとしましても、安心・安全な繁華街づくりのため、繁華街関係者との面談、パトロールや清掃活動をはじめ、黒崎繁華街における組合や団体の規約等に対する暴力団排除条項の導入促進、暴力団員立入禁止標章の掲示促進等の活動を行って参りました。

本年も当プロジェクト員一同、各種活動を通じて、暴力団を寄せ付けない、健全で魅力ある黒崎繁華街の実現のために尽力して参りますので、引き続き、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



黒崎祇園山笠競演会60周年を迎えるにあたって

山笠保存会 会長 岡田 良夫

季冬の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

北九州副都心「黒崎」四百余年の歴史あるわが郷土のまつり『黒崎祇園山笠』。「華麗」・「勇壮」・「優美」夜空を照らす電飾は、一夜の夢か幻か。力強く打ち鳴らす祇園太鼓の調子に合わせ、昇き手衆の無駄のない動きと駆け抜ける山車（だし）の美しさ。

白法被にほとばしる熱き汗。揺れる波しぶき。老若男女誰しもがこう思うに違いありません。（やっぱり黒崎のまつりは、マジすごい！）ってね。

さらに、黒崎祇園山笠の山車のもう一つの顔は、電飾に衣替えする前の県指定無形民俗文化財「笹山笠」。簡素ではありますが、大衆民俗芸能の伝統を次世代の子ども

たちに、末永く受け継がれていけるように、諸先輩の方々が「弛まぬ努力」と将来を見据えた「アイデンティティの確立」を伝承し、立派な後継者へ成長していけるように日々育成しております。

ここに北九州市夏の三大まつりの一翼を担う「黒崎祇園山笠」は、地域のみならずのご支援と行政・事業所さまのご理解ある後押しで、更なる飛躍と発展をめざし、山笠関係者一同、たゆまぬ努力をする所存です。これからもご愛顧・お引き立てのほどよろしくお願いいたします。



副都心黒崎開発推進会議 会員企業トピックス！

安川電機みらい館の取り組み

安川電機みらい館 館長 岡林 千夫

2015年6月のオープン以来、北九州市の小学校を中心に年間3万人を超える方々にご来館頂いていましたが、2020年からの新型コロナ感染拡大を受けて、2021年度は工場見学の見学中止、みらい館の閉館が続いています。

そこで、新たな取り組みとして、2021年4月よりリモート工場見学を開始しました。小学校の教室とみらい館をオンラインで繋ぎ、社会科見学として安川電機の産業用ロボットについて楽しく学んでもらうことが狙いです。今までに2,000名を超える小学生が参加してくれました。

まだ新型コロナの変異株など予断を許しませんが、2022年中には工場とみらい館の来場型見学が開けるように準備していく所存です。



「福岡国際マラソン」日本人トップの第2位！

黒崎播磨株式会社 代表取締役社長 江川 和宏

12/5(日)に開催された第75回福岡国際マラソン選手権大会で、当社陸上部の細谷恭平選手(26)が2時間08分16秒と日本人トップの2位でゴールしました。2021年で長い歴史に幕を閉じ、最後の大会を迎えた福岡国際マラソンへのエントリーは、細谷選手にとって3度目となるマラソンへの挑戦でした。細谷選手の初マラソンは2020年2月に開催された第75回びわ湖毎日マラソンでしたが、結果は2時間28分47秒(120位)と本人にとっては悔しい結果となりました。それから1年を経て、2度目のマラソンとして臨んだ第76回びわ湖毎日マラソンでは、2時間06分35秒(3位)で日本歴代記録6位の記録を残し、そして今回の福岡国際マラソンでは日本人トップの記録達成という、長年の陸上人生の結実と言える結果となりました。また今回の結果により、パリ五輪への第一歩となるマラソングランドチャンピオンシップ(MGC)への出場権を獲得することにもなりました。2021年は日本歴代記録・日本人トップ記録の達成と、自身のキャリア最大とも言える結果を残した細谷選手。今後のマラソン界を牽引する選手の一人として、更なる活躍に期待がかかります。



黒崎を明るく元気に！倉庫に北九州初ビアスタンド

株式会社 河村酒販 代表取締役 井上 真喜子

2021年酒の販売禁止を強いられる中、黒崎を応援するためのビアスタンドを倉庫につくりました。夢は大きく「日本一旨い生ビール！」を目標とし、樽生インストラクターには7名が満点合格しました。お酒に囲まれた特別な異空間、広い倉庫の中、開放された居心地の良いビアスタンドです。店名は黒崎の新しいスポットになれるようにビアスタンド KUROSAKIとしました。OPENは9月6日。みんなの記念日黒崎96の日を盛り上げて行きます。

極上の旨い生ビールで乾杯！

皆様の笑顔が溢れるビアスタンドになれますように努力精進致します。どうぞよろしくお願い致します。



郵政創業150年

八幡熊手郵便局長 下澤 政宏

郵便事業は1871年4月20日(旧暦3月1日)に創業し、2021年4月20日で150年を迎えました。九州の郵便事業は長崎街道からスタートし、黒崎には1872年1月14日(旧暦1871年12月5日)に「黒崎郵便取扱所(現在の八幡西郵便局)」が設置されました。「近代郵便の父 前島密」の言葉「緑の下の方力持ちになることを厭うな。人のためによかれと願う心を常に持てよ。」を郵便局のDNAとしてこれからもお客さまの暮らしを支えてまいります。

委員会インフォメーション

- 組織活性化委員会 委員長：向井 明
発足30周年を迎えるにあたり、「地域に対して貢献、活動できる自主的な小集団の育成」を関係各位と連携して実現し、協議会の存在意義を具現化します。
- 黒崎タウンシップ推進委員会 委員長：権頭 喜美恵
次の10年先を考えながら「①わくわく仲間づくり②いきいきまちづくり③まちを興すおたがいさまづくり」の3本柱で進めていきたいと考えています。
- 黒崎活性化委員会 委員長：田中 大士
今年はスペースワールド跡地に西日本一の面積を誇る商業施設の開業、折尾や陣原の再開発など黒崎を囲むエリアの変化が見える年です。そのような背景から2050年の黒崎のビジョンを考えてみようということで第1回目は意見交換会を昨年10月下旬に行いました。2回目以降は他都市の事例を勉強したり、講師の方を呼んだりして、どのように黒崎が変わっていくのが良いのかを考え提案できたらと思っています。
- 広報委員会 委員長：河野 俊毅
新体制で、設立30周年という節目でもあり、従来とは違った活動が期待されます。黒崎の発展に少しでも役に立てるように、会報誌やホームページを始め、様々な発信をしていきます。皆さんからの、様々な情報提供をお願い申し上げます。

☆ホームページのご案内☆

当会と黒崎のまちの最新情報は、こちらをぜひご覧ください！

<https://k-fk.jimdo.com/>



副都心黒崎開発推進会議

令和3年度 定例総会（書面表決）のご報告

毎年7月にホテルにて定例総会を開催しておりましたが、令和3年度の総会は新型コロナウイルス感染防止の観点より、7月28日付けの書面表決と致しました。

令和4年度定例総会は例年通り7月下旬に開催予定です。

開催の折にはぜひご参加ください。

〈定例総会〉

議案第1号 令和2年度 事業報告

議案第2号 令和2年度 収支決算及び監査報告



議案第3号 令和3年度 事業計画(案)

議案第4号 令和3年度 収支予算(案)

議案第5号 役員改選(案)

以上5議案。書面送付先155件。質問や意見が1件あり。会員の皆様のご賛同を頂き可決しました。

【御礼】

書面表決にも関わらず例年と変わらず本総会に協賛広告頂きありがとうございます。

